

「英語必修化に伴う3・4年生向けカリキュラム・教材・指導案、及び研修事業」

調査の概要

◆課題認識

- ・我が国の英語力は各種調査で依然低位
- ・小学校において、外国語の「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」を重視した指導法へと切り替える必要がある
- ・現状の指導が十分効果的とは言えない

◆調査研究の目的

- 児童の英語コミュニケーション能力を以下の取り組みを通し、高めることを図る
- ・授業（カリキュラム・指導案）
 - ・教材（ICT教材を含む）
 - ・教師向け研修会の開催

◆調査研究の成果目標

- ①中学年の年間カリキュラムの作成。
- ②ALTとの役割分担のある指導案やモジュールの指導案（年間35時間）の作成。
- ③フラッシュカード・ICT等の各種教材開発
- ④児童が話せるようになる外国語活動の模範授業と理論を学ぶ研修会の開催。
- ⑤文部科学省が示す700語程度の単語の習得計画とアルファベット習得のためのカリキュラムの作成。
- ⑥試行授業の実施等による効果検証。

◆連携先

東京都小笠原村教育委員会

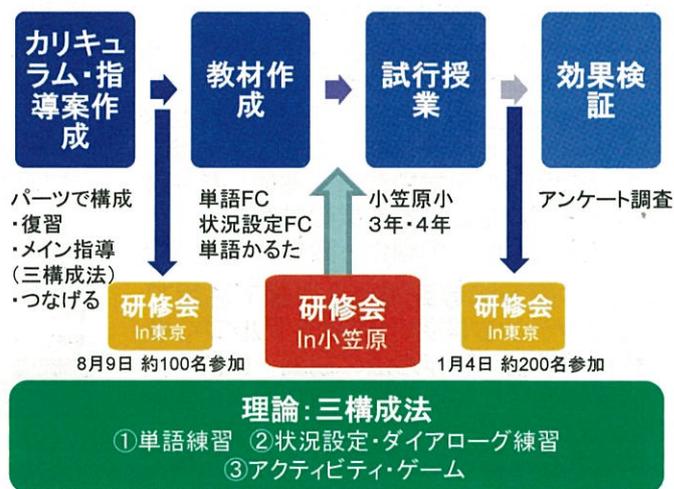
取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ①三構成法による全時間の指導案の開発
 - ・文部科学省のカリキュラムに対応
 - ・「復習」「メイン指導（三構成法）」「つなげる指導」の明快で柔軟な授業構成
- ②状況設定・単語フラッシュカードの開発
 - ・場面の設定と単語のインプットが確実
 - ・授業準備が大幅に短縮できる
 - ・①②を活用した小笠原小での試行授業（3,4年生）
- ③理論と実践を伝える研修会の開催
 - ・知識や理論に加え、実際に参加者が実技・技能を学ぶことができる形式
 - ・①②を含む充実した研修会資料

◆成果

- ・研修会：1）計2回、約300名の参加者。2）高い満足度（79.4%が非常に満足）3）外国語活動を児童に教えることへの自信、授業の理論の理解に特に効果
- ・試行授業：教員 調査項目の平均値（5点中）3年教員4.5、4年教員4.7
 児童 「カードを見て言えたか？」→言えた 3年92%、4年94%
 「もっと英語が話せるようになりたいか」→なりたい 3年100%、4年97%



今後の課題

◆さらなる研究と効果検証（PDCAサイクル）

- ・研究範囲：5・6年生外国語へと接続した一体的な研究・開発の実施
- ・研究深度：より精度の高い科学的根拠のある検証の実施、中長期の教育効果の検証の実施